

計画部会における検討状況

(第5回計画部会資料2より抜粋)

自立した地域社会の形成

人口減少が進展する中で、持続可能な自立的な地域社会の姿をどう描くか。その形成に向けた鍵は何か。その際の国等の関与、役割について、どう考えるか。
 地域コミュニティの今日的な意義について、どう考えるか。
 多様な社会的サービス(生活関連サービス)を持続的に提供するための地域社会の経営システムをどのように構築していくか。
 地域の自立的な活性化を目指して、地域経営のあり方をどう考えるか。

(計画部会、専門委員会における主な意見)

- ・ 知識社会への移行で地域の活性化のチャンスとも捉えられる。
- ・ 価値観やライフスタイルも多様化し、ソーシャル・キャピタル(社会関係資本)文化資本など経済以外の資本の充実に対するニーズが拡大している。
- ・ 「自立」には、「自律」の意味を含めて考えるべきだ。
- ・ 地域での雇用機会の確保が、地域の自立には重要だ。
- ・ 地域の問題は、資金面の問題ではなく、地域の意思と実行する組織力の問題だ。
- ・ 各地域には、素晴らしい地域資源があるのだから、あとは知恵と努力が必要なのではないか。
- ・ 持続可能であっても、競争は常に存在する。地域の競争力の鍵は、個性、経済効率性、信頼性だ。「個性を活かした競争」という考えがあってもよい。
- ・ 「国土の均衡ある発展」を全否定してよいものか疑問だ。医療と教育の地域格差は存在する。機会の不平等を埋めるといふ考えはあってもよいのではないか。
- ・ 農山漁村を支えている地域コミュニティは、後継者が不在で危機的状況にあり、対策の検討が必要だ。地域コミュニティを支えるソーシャル・キャピタルが重要だ。
- ・ 地域コミュニティの活性化については、生き甲斐のある暮らしの視点が必要だ。
- ・ ITはコミュニティの連帯感の強化、地域外との交流活動の支援などに有効だ。ITによって、どれくらい条件不利地域の不利な条件をカバーできるかを検討すべきだ。
- ・ 自己変革能力の源泉は多様性だ。開放的な地域コミュニティをつくるには、外部から入ってくる人たちなど新たな考えを持った人たちへの包容力が必要だ。
- ・ 一般の人でも人材になりうる。地域でのリーダー不在が安易な言い訳になることには注意が必要だ。
- ・ 地域経営のリソースは、金と人だが、これからは、金よりも人を地域に向けて動かすことに重点をおくべきだ。
- ・ 団塊の世代の中でも、男女の関心志向が異なることなどから、地域間移動はあまり起こらないのではないか。移住より継続的な往復の方が実現するのではないか。